

1. 活動を通じてわかったこと（現場の実態）

勉強会でのディスカッションやアンケート・ヒアリング調査により、ものづくりDXの推進状況に関して、技術論以前の「生々しい現場の壁」が浮き彫りとなった。

▲ 致命的な「OTとITの断絶」

現場(OT)と情報(IT)間に共通言語がなく、要件定義が頓挫するケースが多発。「何から始めればよいか分からない」中小企業が取り残されている。

🚫 DXを阻害する3つの壁

▶ 投資・人材の壁:

ROI(費用対効果)が描けず決裁が下りない。ITリテラシー格差が激しく、推進リーダーが育たない。

▶ インフラ・通信の壁:

工場内の電波干渉による通信の途切れリスク。無数にある通信規格(Wi-Fi/5G等)の選定基準の欠如。

▶ 心理的・組織の壁:

「今のままで回っている」という強い現状維持バイアス。「クラウド=危険」という過度なセキュリティ懸念。

2. 課題打破に向けた「羅針盤」

単なる「カイゼン（手段）」から、事業継続権を獲得するための「変革（目的）」へパラダイムシフトを図る。

📌 成熟度に合わせて段階的アプローチ

Step 1. 可視化（診る）

IoT後付け・現状把握

Step 2. 最適化（予測）

AI予知保全・不良特定

Step 3. 高度化（創る）

デジタルツイン・自律制御

🎯 4つの目指す姿

強靱化

SC全体のデータ連携

柔軟化

無線化・レイアウトフリー

全体最適

止まらない自動補正工場

仮想融合

試作レスな開発体制

3. 今後WGが行っていくこと

提言（画餅）に終わらせず、産学官連携エコシステムによる「実行プラン」を稼働させ、伴走支援を強化する。

① 課題解決型マッチング

現場の悩みと国内IT系企業等のソリューションを結びつける場を創出。大学・研究機関の研究シーズと製造現場ニーズの双方向マッチングも行う。

② 生きた「事例」の積極的共有

同規模・同業種の「泥臭い成功・失敗事例」や、無線インフラ選定の明確なモノサシ（カオスマップ等）を提供する。

③ 実践的ブリッジ人材の育成

IT/OTの共通言語を持つ「ブリッジ人材」を、アカデミアの人材育成プログラムとも連携しながら地域ぐるみで育成する。

④ 伴走支援と実証実験サポート

ROIが描けない企業への専門家派遣や、テストベッド（実際の工場環境）を用いた実証実験をサポートする。